

【くさかとしこ】が見た瀬戸内市の行政！

今議会に、事業者の水道基本料金も無料にする予算、約1千600万円が計上され可決しました。前回の国からの、「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」は、生活者支援でした。

今回は事業者支援として、市内の1,000事業者を対象に、1ヵ月分の水道基本料金2,200円（10立方メートルの場合）を6ヵ月分免除します。

Q 今回の事業者支援に水道基本料金を選択した理由は。

A 市役所内で実現可能な事業の希望調査をし、前回同様コストがかからないスピード重視で選択した。

Q 前回の水道基本料金の無料化では、水道を引いていない井戸水の家庭を取り残したが、市内に水道を引いていない家庭が何件あるか調べたのか。

A 調査出来ていない。

Q 行政として誰1人取り残さないという原則から考えると、何らかの支援を考えることは出来ないか。

A 水道の基本料金としては難しい。
水道を引いていないということは、もともと得をしているのではないか。

くさかとしこの主張： =====

国の物価高騰支援を、水道の基本料金で支援をすると決めたのは瀬戸内市で、井戸水の家庭だって物価高騰には大変な思いをしておられると思います。

それを、水道を引いていないということはもともと得をしているなんて話は、絶対におかしいと思います。ましてや、調査もしないなんて、ありえません。

きっと、あったとしても数軒のことだと思います。それであれば、その数軒にもきちんと対応できる瀬戸内市であって欲しいと思います。



帝国データバンクが発表した「食品主要195社」価格改定動向調査によると、主要食品メーカー195社で家庭用を中心に予定されている2026年7月の飲食料品の値上げは、2,566品目に上ります。

単月で2,000品目を超えるのは3ヵ月ぶりです。

2026年通年の値上げ品目数は、1～11月の判明分で1万4,902品目にも達しています。

8月には1,898品目、9月には年内最多となる3,029品目の値上げが予定されています。

9月に単月で3,000品目を超えれば、2025年10月以来11ヵ月ぶりとなる見通しです。

異常気象による小麦など穀類の不作や、生鮮食品の恒常的なインフレ圧力を今後の懸念材料に挙げ、飲食料品の値上げラッシュは年内も続くと思われます。

行政 NEWS

とっしん

vol
53

本格的な夏がやって来ましたが、皆様にはお変わりございませんか。

辺りを見渡すと、田んぼがまるで緑のじゅうたんを敷き詰めたように、輝いています。

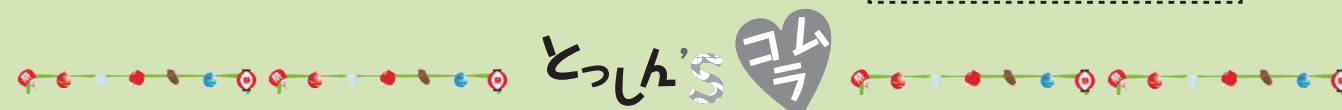
私はこの景色が大好きです。こんなステキなところに暮らしていることを、本当に自慢に思います。

皆さまには本当にいつも、温かく見守っていただき、そして励ましていただき本当にありがとうございます。

皆さまに市政の場へと送り出させていただいて、13年が過ぎました。その間常に、皆様の声を市政に届けていきたい、その思いでいます。その思いは、今もこれからも変わることはありません。引き続き力強いご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



田植えが終わった
美しい田園風景（磯上）



地域には、昔ながらの数々の習わしがあります。もうすぐ8月6日には『大小屋（おおごや）』といって迎え火をします。

『ほ～とけさま、これみて、いらっしゃれ』とみんなで歌って、わらの山に火をつけてお迎えします。

15日には、『万灯（まんとう）』といって送り火をします。

『ほ～とけさま、これみて、いなっしゃれ』とみんなで歌って、竹に火を灯して、お送りします。

こんなことが普通に繋いで行ける地域が、私は大好きです。大切にしたい伝統です。

磯上では、毎年お盆のあとあたりで『磯上ふれあい夏祭り』を開催しています。そして、お祭りのフィナーレには花火を上げています。今年は、8月22日の予定です。

花火を楽しみにしてくださっている方がたくさんいて、いつも『見せてくれてありがとう』のうれしいメッセージが届きます。それとともに、『どうせならもう少し見たい』、という声もたくさん届きます。

今年は、その声に応えるべく努力することにしました。

なので、もしかしたらいつもよりたくさんのお花火をお見せすることが出来るかもしれません。どうぞ、お楽しみに♡



令和8年8月1日発行
発行責任者 瀬戸内市議会議員

くさかとしこ

〒701-4273

瀬戸内市長船町磯上569

TEL/FAX 0869-26-6420

携帯TEL 090-5702-8336

ホームページ

<http://www.kusaka-toshiko.jp/>



一般質問

今回の私の一般質問は
1.行政姿勢について
2.第2宮下産業団地について 質問しました。

1.行政姿勢について

これまでの経緯：

2月議会が始まったのが、2月17日、終了したのが3月19日でした。広報の4月号が配られたのが3月25日頃からです。終稿がきっと3月の半ばではないでしょうか。

であれば、広報誌に無料乗車チケットを印刷していたのは、まさに2月議会中ということになります。2月議会は、予算議会です。無料乗車チケットはまさに、市営バス使用料の額が変わることではないでしょうか。議会で予算を審査しているまさにその時に、議会に相談なしに無料乗車チケットが印刷されたこととなります。少なくとも私は、広報を見るまでは何も知りませんでした。

これってどう考えてもおかしくはないでしょうか。

このことについては、納得できないことが多すぎて今回の質問をしました。

- ①4月号で配布することについては、いつ決めて、議会にはいつ、どのように報告したのか
- ②利用実績は1,740枚と聞いたが、路線ごとの利用実績は
- ③今回の無料乗車チケットは、値引きか、寄附か、謝礼か、会計処理上はどの費目で処理するのか
- ④今回の無料乗車チケットの配布は、法的に問題はないのか
- ⑤広報に印刷された無料乗車チケットだと、市民全員に行き渡らないことについてはどう考えるか
- ⑥今回の効果をどう捉え、どう総括するか

※質問の回答については長くなるので、ホームページの録画でご覧いただけます。

くさかとしこの主張：=====

議会に相談なく広報に無料乗車チケットを印刷したのは、議会軽視ではないかという私の言葉に、村山副市長から、

『私はセミナーの講師で議員の皆さんに、議会軽視というのは伝家の宝刀であるから軽々しく使うべからずということ、個人的に申し上げていた』、との回答がありました。

私は、村山副市長のセミナーを受けているわけでもないのに、そんなことを言われるのは筋違いな気がします。

前回の水道基本料金での物価高騰対策は、井戸水の家庭を取り残しましたが、今回の広報誌に印刷されたバス無料乗車券は広報が届かない家庭を取り残しました。誰1人取り残さないという行政の原則からすると、ほぼ全戸にお届けできればいいというのは違うと思います。ましてや、瀬戸内市の町内会への加入率は、9割を切っているのではないのでしょうか。ほぼ全戸というには無理があります。

そうして広報紙に無料乗車チケットのようなものを印刷されるのであれば、これからも、広報誌にもっとほかのものも印刷をしていただけないかなということも考えます。11月1日の瀬戸内市民の日の無料のバス券なども、その日だけだったら、たしか去年は中型バスしか運行していないのが瀬戸内市民の日だったんですね。それがこうやって広報紙に印刷するのであれば、例えばそれでここに1か月間無料とかといって書いてくださるのであれば、中型バスの人だけでなくワゴンバスの人も使えるのではないのでしょうか。

瀬戸内市民の日の恩恵であるのであれば、美術館の無料入場券であるとか博物館の無料入場券、そういうものも印刷をしていただければ期間内に訪れることができ、呼び水として知ってもらえるのではないのでしょうか。ぜひ、そんなことも考えていただきたいと思います。



2.第2宮下産業団地について

第2宮下産業団地については、2年前の11月議会に6万㎡をアイリスオーヤマ株式会社へ約7億9,800万円で売却する議案が計上され可決しました。

そして誘致企業は11月14日、岡山県瀬戸内市の第2宮下産業団地に「岡山瀬戸内工場」を新設することに伴い、瀬戸内市と立地協定と包括連携協定を締結したと発表しました。

市長は、市長就任時の行政報告で、

『第2宮下産業団地に誘致中のアイリスオーヤマ株式会社について、当初の予定では今年の夏頃から建設工事に着手する計画としていましたが、企業側からは事業着手に必要な手続きに時間を要しているため、瀬戸内工場の着工時期が当初想定より遅れるとの連絡を受けています。という報告でした。

また、3月1日の市長のタウンミーティングで、誘致企業についての質問に対して、『アイリスオーヤマについて市が把握していることは、利用する国の補助金の関係で当初のスケジュールではなくなっているようです。』、と回答されています。

そして、今回の私の質問に対して市長から、

『私が先週、市長会のタイミングで訪問した際の最新情報だけ補足させていただきます。6月に工場の建設、物流棟の建設の入札を行ったようですが、不調に終わったと聞いています。予算として確保していた金額を3割から4割ぐらい超える金額になってしまったと聞いています。そのお金を自社で用意して上積みするのか、それとも補助金が増えるのか、何か別の制度を獲得しに行くのかというところの選択肢を模索しているということで、現時点で具体的な計画として定まっているところがないということでした』、という報告でした。

誘致企業は、当初第2宮下産業団地で家電製品の生産を予定していましたが、国内外で需要が高まる【パックごはん】の生産に変更し、中国四国地域の生産・物流拠点として稼働させるとのことでした。

瀬戸内市とアイリスオーヤマ(株)との包括連携に関する協定書の、

第4条 連携の推進の2に

甲乙は 甲が瀬戸内市で 乙がアイリスオーヤマ(株)ですが、

前条に掲げる事項の連携について円滑な連携を測るため、それぞれ窓口を設置し、必要な連携調整を行うものとする、とうたわれています。現在、売却後1年半になります。

くさかとしこの主張：=====

米パックの生産には水が必須です。

誘致企業は1日当たり最大1,500トンの水量を使用する計画と聞いています。これからの本市の水道事業にとってこの大口の水道利用事業者は、私たちの水道料金に取っても大きな意味を持つてくると考えます。

また本市の米についても、どのくらい使用してもらえるかが農業の成長戦略にとって大きな意味を持つてくると考えます。

第2宮下産業団地が、誘致企業とは定期的な話合いが持たれているとはいえ、開業はいつになるのか、水道や本市の米はどのくらい使用してもらえるのかが、気になることです。

本市の成長戦略のためにもしっかりと連携をとり、情報を待つのではなく、本市に有利になるよう引き出していくべきだと私は考えています。

ずっと言い続けていますが、南北道長船出口は、今でさえ小中学生何百人もの通学路であるにもかかわらず、信号もなく大変危険な通学路です。毎年の通学路の安全点検では、いつも危険な通学路としてあげられています。この場所に、第2宮下産業団地が整備され誘致企業が開業すると、今でさえ危険な子どもたちの通学路が、これ以上危険になることを見逃すことはできません。どうか、信号の設置等の安全対策を求めます。

